

受験番号

受験番号

令和7年度  
国語

問題一

令和七年度  
国語解答紙

文・教・法・医(保健学科看護学専攻)  
(四枚のうち、その一)

一

問一

大仰	㊦
懂	㊧
侮辱	㊨
費	㊩
享受	㊪

問二

馬

問三

考古学者が飽くなき知的欲望を正当化するため、発掘の目的に人類史の解明という大げさな大義名分を掲げていることに対して問題視する意図。

問四

過去の遺跡を発掘し、保全し、補修や回復を施すことが、「過去の権利」を守ることになるとするのは、過去の人類の意志は知り得ないにもかかわらず、現代人の知的欲望のために権利の主体を人類ではなく遺跡が持つという論理にすり替えて正当化しているということ。

問五

遺跡に対してどこまでも知り尽くしたいという知的欲望のままに、過去の人類の意志や遺跡の存続、継承について想いをさせることすらせずに、文明の発展に貢献する行為だとして、発掘したり破壊したりしてしまう者。

受験番号

受験番号

令和7年度  
国語

問題二

令和七年度  
国語解答紙

文・教・法・医(保健学科看護学専攻)  
(四枚のうち、その二)

二

問六

治子は曲玉がふれあう音を「たまゆら」と呼んでその音をこよなく愛し、  
ことされる時まで聞いていたと知った「私」には、考古学や国語学での「たま  
ゆら」の解釈は幻滅を誘うもので、治子の解釈がふさわしいと思えたから。

問七

A  
イ

B  
ケ

問八

平和や幸福を感受させる、尊くもはかない「たまゆら」の音は、若くしてそくなっ  
た治子の理知的で美しい様子を想起させ、交際相手を深く愛していたに  
もかわらず、死によって別れざるを得なかった生前の思いや生き様に迫る  
上での手がかりであり、哀惜の念を抱く寄り所としての意味を持つ。

受験番号

受験番号

令和7年度  
国語

問題三

令和七年度  
国語解答紙

文・教法  
(四枚のうち、その三)

三

問九

ウ

問十

① 和歌を巧みに詠む者と同等であるようなことを望む

③ 決して師匠の模倣をしてはならない。

問十一

成長途上の苗を無理に助長した結果、苗を枯らすと同様、和歌の未熟な者が上手な者の詠みぶりを実力以上にとり入れようとして、上達が妨げられること。

問十二

師や巧者を焦って模倣することなく、年月を経て自然と深く優美に詠めるまで、正しい表現で自分なりの心情・内容を追求し、おおらかに構えて詠んでいくこと。



受験番号

受験番号

問題四

令和七年度  
国語解答紙

文・教法  
(四枚のうち、その四)

四

問十三

Ⓐ

たれ

カ

Ⓑ

あ

ヘテ

問十四

夫至乎誅諫者必伝之舜

問十五

(1)

疑

ウ

察

ア

(2)

堯が家臣の鯀や共エノラ身分の低い舜に天下を譲ることを諫められたとき、彼らも  
処罰してでも舜に天下を譲ったように、自分の決定に他者が疑義をさしはさん  
でも自分の信念を貫くことはなかなかできることではないということ。

